

CAR No.35

Beyond

スーパーFJ  
アルビレックス・レーシング・チーム

PRESS RELEASE

2011/4/24



スーパーFJ 富士チャンピオンレース 第1戦

### 福島選手富士初出場で完走

空には雲が広がり太陽が隠れ少し肌寒い中、富士チャンピオンレースシリーズ第1戦を週末に迎える金曜日。フリー走行を3本走行。今回がスーパーFJ デビューレース。レースまでの練習量は少なく、金曜日のフリー走行で少しでもタイムアップできるように走行ラインやブレーキング、他のマシンとの比較を行い、走り方を修正してレースに備えた。

- 4月22日 フリー走行 1本目 9:45~10:15 天候 曇り 路面状況 ドライ 湿度52% 気温13℃ 路温18℃  
レースウィークの金曜日、走行台数も増えた。いろいろと速いマシンの後ろにつき、ラインをトレースしたり、ブレーキングポイントを真似してみたりと、とにかく自分に足りないところを吸収した。走行終了間際に走り方をまとめて1' 56" 80を記録。  
フリー走行 2本目 13:20~13:50 天候 曇り 路面状況 ドライ 湿度55% 気温14℃ 路温18℃  
1本目から少し時間をおきイメージを整理しつつ走行開始。苦手意識があり実際にタイムも遅いセクター3(ダンロップコーナーから最終コーナー)に重点を置き走行した。  
フリー走行 3本目 15:45~16:15 天候 曇り 路面状況 ドライ 湿度57% 気温14℃ 路温16℃  
初めてのNewタイヤで最初のうちは戸惑うものの1' 54" 98とタイムを更新した。少しずつ修正が良い方向に進んでいき、練習に使っていたタイヤに限界を迎えたためNewタイヤを装着して走行。良いタイヤで走行した時に改めて分った問題点なども出てきて走行時間一杯に走行したが、感触は悪くないものの、しっかりと来る何かがなかった。
- 4月23日 フリー走行 1本目 路面状況 ウェット 天候 雨 予選前のフリー走行では、濡れた路面でのマシンの挙動や雨の中でのコースの特性などをひたすら探った。雨は得意だが、フォーミュラで雨の走行経験が貧しいので、1つのコーナーも無駄にしないように周回を重ねた。途中、クラッシュ車両を回収するために赤旗中断となり、30分の走行枠が20分に短縮されたが、走ってみての感触は思っていたより良かった。
- 予選 11:05~11:25 路面状況 ウェット 天候 曇り 湿度87% 気温14℃ 路温13℃いよいよ予選が始まった。フリー走行の時の良い感触が残っており、順調にタイムを更新していく。一時は5番手タイムをたたき出すが、低速車両につかまり、クリアラップが取れず10番手まで落ち不完全燃焼のまま予選は終了した。Best time 2' 06" 750 グリッド 10 (24台出走)
- 4月24日 決勝レース 9:15~ 路面状況 ドライ 天候 晴れ 湿度71% 気温12℃ 路温16℃ スタートでエンジンをストールさせてしまい出遅れる。前方で2台がコースアウトし13番手に上がる。その後、金曜日からの課題であったセクター3で後ろにびったりと着かれてしまい、最終コーナーでインを刺されストレートでオーバーテイクされた。すぐにスリップを使おうとするも置いていかれ、1コーナーが過ぎた頃には距離が空いてしまった。自己ベストの1' 54" 733を更新するもファイナルラップにプリウスコーナーで白煙を上げスローダウンする車を抜かして16位でチェッカーをうけた。  
Best time 1' 54" 733 最終順位 16位

福島選手コメント レースウィークの3日間を通じて、今シーズンが少し見えた気がした。いま、言える事は練習不足である。走行ラインもブレーキングポイントもまだまだ正確ではない。コーナリング時の『ロール』に意識を置いている。良いイメージは出来ているが、なかなかドライビングに表すことが出来ない。第2戦は、前回より1つでも上の順位、入賞圏内を目指していきたい。

中村監督コメント 走行ラインもブレーキングポイントもまだまだ正確ではない事を認識した。イメージ通りに走行できる様、練習を重ね次回は表彰台にあがるよう努力いたします。ご声援御願いたします。



Nankai Plan Co.,Ltd.



鈴木会計 埼玉・川口  
http://www.tcnf.com/sds



CAR No.36

Beyond

スーパーFJ  
アルビレックス・レーシング・チーム

PRESS RELEASE

2011/4/24

スーパーFJ 富士チャンピオンレース 第1戦

田中選手NEWマシーンで挑む

Albirex-RT

- 4月22日 フリー走行 路面：ドライ 去年の12月以来の走行となるため、まずは体の慣らしと今年から乗るニューマシンの10Vの特性をつかむことから始めました。10VはKK-Sと比較してとにかくラクションがかけやすい点が印象的でした。そのため立ち上がりアンダーとなる傾向があり、コーナー進入～旋回中の姿勢作りがより重要になると感じました。乗り慣れていない中、used tireで自己ベストを更新できたので、new tireを履けば決勝で十分勝負できる手応えはありました。フリー走行後はミッションが入りにくいのでシフトノブの位置調整、シートベルトの調整などを行いました。
- 4月23日 フリー走行～予選 路面：ウエット ウエットの走行も初となるので、朝一のフリー走行で出来る限りマシンの特性を掴むように心がけました。予選は遅い集団に引っかかってしまい、ピットスルーでやり過ぎて再アタックを試みたものの、別の集団に捕まってしまう満足のいくアタックが出来ないまま予選を終え、11位/24台で決勝に挑むこととなりました。予選アタック開始位置の悪さが今回のレースの反省点でした。
- 4月24日 決勝 路面：ドライ スタートについては8割の出来で前車2台を抜くことができた。2週目100Rで前車と併走しながらのコーナーリング中に私の左フロントタイヤと相手右リアタイヤが接触しそうになり、アクセルを戻したところでスピンしながらアウト側に飛んで行きました。エンジンもストールし、追い上げを試みましたが15位がやっとでした。今回のスピンに関しては、相手の動き次第でスピンして当然の立ち位置をとった自分のミスでした。このミスは二度と繰り返さないよう、今後に生かしていきたいと考えます。
- その他所感 今回、FCJ、F4と上位カテゴリーの走行を見ることが出来ました。印象的だったのはF4の関口選手。2位以下に大差をつけてのレースでしたが、コーナーの抜け方が他の選手と全く違いました。私のドライビングに対するイメージは2位以下の選手に近かったのですが、根本から見直す必要があると感じました。「短距離で車速を殺し、旋回速度を上げる。」基本的なことですが、関口選手はそれがより高い次元で行えているように見えました。※今年FCJに出ている平川選手も去年のS-FJ日本一決定戦でそのようなしていました。自分がやるべきは持久力、筋力UPと認識しています。

中村監督コメント 練習を重ね今年度は表彰台にあがるよう努力いたします。ご声援御願いたします。

Nankai Plan Co.,Ltd.



鈴木会計  
埼玉・川口  
<http://www.tknf.com/sds>

P PLUS

Moty's  
HYPER LUBRICANT TECHNOLOGY

